

AMED-BINDSによるアカデミア創薬研究

推進へ向けた取り組み(特別企画)

12月5日(土) 10:00～12:00 第1会場

座長：善光 龍哉(日本医療研究開発機構)

- ◇大阪医科大学におけるBINDSとの連携—バイオバンク検体の活用から創薬研究まで
谷口 高平(大阪医科大学研究支援センタートランスレーショナルリサーチ部門)
- ◇iPS細胞由来心筋細胞を用いた創薬研究
内藤 篤彦(東邦大学医学部生理学講座細胞生理学分野)
- ◇腫瘍細胞優先的にP53経路を活性する新たな機構の解明とがん分子標的治療薬の開発の試み
河原 康一(鹿児島大学大学院医歯学総合研究科分子腫瘍学)
- ◇神経変性疾患ポリグルタミン病に対するタンパク質凝集阻害薬L-アルギニンによる治療法開発
永井 義隆(大阪大学医学部神経難病治療学)
- ◇創薬研究の限界から見えてくるアカデミア創薬への期待とは？
近藤 裕郷(九州大学大学院薬学研究院グローバルファーマシー分野)

日本医療研究開発機構(AMED)の「医薬品プロジェクト」のうち、創薬の標的検証ステージから前臨床研究の前までをカバーし、アカデミアや民間企業の研究者の研究を支援する「創薬等ライフサイエンス研究支援基盤事業(BINDS)」で支援を受けた研究者が研究成果を発表する。

谷口高平氏(大阪医科大学研究支援センタートランスレーショナルリサーチ部門)は、バイオバンク事業で収集した試料等を用いて、学内外の研究室や企業等との共同研究の促進に取り組んでいることを示す。BINDSの支援を受けて、臨床試料を用いた実験系の確立や、アカデミア創薬開発の支援体制に対する基盤整備の構築を進めていることなどを紹介する。

内藤篤彦氏(東邦大学医学部生理学講座細胞生理学分野)は、ヒトiPS細胞由来心筋細胞を用いた創薬研究の一環として取り組んでいる、心臓のポンプ機能に対する毒性を評価する試みや、その応用研究として薬物による心臓のポンプ機能低下を回復させる可能性のある化合

物の探索に関する話題を提供する。

河原康一氏(鹿児島大学大学院医歯学総合研究科分子腫瘍学)は、癌抑制因子P53の分解を促進するMDM2に対する阻害薬の治験が進展する中、MDM2阻害剤の副作用を軽減する新たな機序でP53を活性化する分子標的薬の開発に取り組んでいることを示す。

永井義隆氏(大阪大学医学部神経難病治療学)は、これまでに実施した基礎研究で、神経変性疾患ポリグルタミン病に対するタンパク質凝集阻害薬L-アルギニンによる疾患修飾治療効果が明らかになったとして、医師主導治験の準備を進めている現状を説明する。

近藤裕郷氏(九州大学大学院薬学研究院グローバルファーマシー分野)は、難治性でアンメットメディカルニーズの高い疾患においては、創薬標的分子の正確な絞り込みが不十分なためヒトで有効性を示す治療薬の創製に至っていないとして、その解決に向けてアカデミアが果たす役割や取り組みなどについて紹介する。

シンポジウムの主な話題

Covid-19克服に向けて

～治療薬開発と治験環境の現状～(特別企画)

12月4日(金) 15:30～17:30 第1会場

座長：斎藤 嘉朗(国立医薬品食品衛生研究所)
渡邊 裕司(浜松医科大学)

- ◇Covid-19克服に向けて 治療薬開発の現状
大曲 貴夫(国立国際医療研究センター国際感染症センター)
- ◇新型コロナウイルスに対するワクチン開発
森下 竜一(大阪大学大学院医学系研究科臨床遺伝子治療学)
- ◇COVID-19治療薬に対するPMDAの取組み
宇津 忍(医薬品医療機器総合機構)

新型コロナウイルス感染症(Covid-19)の拡大によって、日常生活や医療は大きな影響を受けている。治療薬やワクチン開発の現状が示されると共に、Covid-19を契機に、医薬品開発においてベネフィットとリスクのバランスをどのように考えるべきかという課題をこのシンポジウムで再考する。

大曲貴夫氏(国立国際医療研究センター国際感染症センター)は、Covid-19治療薬開発の現状を解説する。既存の医薬品の中からCovid-19の治療に効果を示す医薬品を探索する取り組みなどが国内外で進んだ結果、標準治療薬が確立されつつある。酸素を必要とする肺炎患者に対するレムデシビルやデキサメサゾン効果が示されたほか、Covid-19で起こる凝固異常や血栓症に対する抗凝固療法も確立されつつある。

ほかにも抗ウイルス薬や抗炎症薬の治験が数多く進んでおり、より優れた治療法の確立が期待されている。治療薬の研究開発推進に向けて大曲氏は、国が研究開発指針の迅速な立案や研究体制の組織化、臨床現場で

の研究を支援する体制構築を推進する必要性を提示する。

森下竜一氏(大阪大学大学院医学系研究科臨床遺伝子治療学)は、新型コロナウイルスに対するワクチン開発の現状を解説する。既に多くの研究者や製薬企業がワクチン開発に取り組んでおり、従来の不活化ウイルスを使用するワクチンに代わって、ウイルスの遺伝子情報を利用した新しいタイプのワクチンの開発も行われている。

森下氏のグループは、世界で初めてのプラスミドDNAの遺伝子治療薬「コラテジェン」を昨年上市したが、そのプラットフォーム技術を用いてDNAワクチン開発にも取り組んでいる。今年6月からその臨床治験が始まった。このようなワクチン開発の現状とDNAワクチンの概要について紹介する。

宇津忍氏(医薬品医療機器総合機構)は、医薬品の承認を審査する規制側の立場から、厚生労働省と協力してレムデシビルを今年5月に特例承認するなど、Covid-19治療薬をめぐるPMDAの取り組みについて、国際的な動向も含めて説明する。

30
ANNIVERSARY
EPSは創業30周年

New Value Creation

変えていくもの、変えてはならないもの。

EP総合は、SMO業界No.1の責任と覚悟をもって、変わらぬ価値を保ちながらも時代に即した“新しい付加価値の高いサービス”を提供していきます

< 医療機関向け新サービス >

- 『TOMA-s』が治験の進捗管理の常識を変える！
- 革新的クラウド型進捗管理システムを開発し提供を開始しました
- ※ 詳しくは、当社ホームページ又は、営業担当へお問い合わせください



株式会社EP総合 since 1999

本社：東京都新宿区津久戸町1番8号 神楽坂AKビル 全国10支店 23オフィス体制

当ファイルの著作権は(株)薬事日報社またはコンテンツ提供者に帰属します。当ファイル(印刷物含む)の利用は私的利用の範囲内に限られ、それ以外の無断複製・無断転載・無断引用はご遠慮ください。当ファイル(印刷物含む)を社内資料、営業資料などでご利用される場合はご相談ください。

株式会社薬事日報社 TEL:03-3862-2141 shinbun@yakuji.co.jp http://www.yakuji.co.jp/